

# 十月

〔収穫祭…三十一日〕

所使て人てにお白  
お母が、い米つでお臼  
ま配さポ餅きをてす父と  
たりんインのまお、さ杵  
す方ント返す餅炊大人を  
るも、トしへきき方使  
紅、よの手餅とあなのつ  
白来ようのをばが臼力た  
餅賣で掛つ身つとの餅  
のをすけくさた杵見つ  
作方。合二せもをせき



直ども餅子  
ぐもたつど  
なたちきも  
がをたち  
が使用ち  
です。行い  
うのま  
はす年  
は真。ご  
つ子と



しで大味餅ご のこ  
たす根付がと全餅、五  
。をけつに児とい種  
高おのき五童大そ類  
学ろ準あ班を福へ、  
年す備がに持を大、  
がのをる分ち作根ん  
担もしまけのり、こ  
当手までま味ま納、  
し作すにす付す豆、  
ま業。、。け。な



切るち自なり長り  
なま米分つや過、種  
でをたて稲程脱ま  
がおちきので穀き、  
子いでた観のと、  
どし育子察田そ田  
もいてどなんれ植  
たおてもどぼぞえ  
ち餅きたをのれ、  
のにたちお草の稲  
大すも。こ取成刈



つにいねあかよパいか「た混に  
た関方るにゴワま? なちぜほき  
す向からかもとーしんもまんな  
瞬間が「海お母ッ「質塩ッ。少  
で知ある苔を苔さんさなすれ。にけ砂  
した。やんにはちせこの子るすは「糖  
。知だけは表した甘どんか子塩  
識より巻とムためみもでさどーほ  
伝やこ裏。めみもでさどーほ  
わ食すうがほだをもすずもをか



まど指い形あ軟権た。六  
しも導るをん整こかすこ年  
したたをえやい。れ生  
ちいでする果つたはは  
もたの物。物。つ。は。は  
俊だ。のお。薄。く。あ。年。福  
先おもを。薄。く。あ。年。福  
生な母結包み。の。つ。だ。作  
もがさ構み。の。つ。だ。作  
頑らんゴま。の。つ。だ。作  
張。方。ツ。す。し。の。餅。の。ま。り  
子のが。、。が。特。し

が前中べをないの田んがす  
多だてし? 手植ぼでる栽  
くと育やなてと伝えやき気  
な思ちつくいいの畑のま持  
つ、ててまうも経の中しち  
てそしもす子ほ験にた。で  
います。どとががある。は、  
るをう周自もんなる学育「  
。子当環りが多し、にがこ感  
もりのす何くな家、田謝



をた保業て畑 会さんて先先 穫豚  
もく護にきの一年食ん、い生生田祭汁お  
心をつて。さん者協た作年です。をたや、んのがい  
をこめて。の域しだを一招者い米の先成い  
「いただきます」へみだ先し田、域張に大佐。しと  
感謝のん。つ。行ぼ 緒み一力昌庄。福  
心。た作つや になさし蔵平 収、



いも米りら心 素はか そそを な方情く米を  
まの作やいや関晴、ら一のし育まりへこつや体し  
し長り野た人岡ら教、人子ててたまもめて野験か  
たいは菜い間小し室授一ら、、し感てく菜しし  
。間二作と性のいで業人しそよ豊た。謝料だにた、  
継十りい豊子学はが得いのりか。の理さ対こ米  
続五のうかど味活た感子よな。気しつしと作  
さ年栽想なもすわ発感やし学験。ちく方もあや  
れ。培い子た。うに想考いびは。をだに、る野  
て野活やどち。こながえを、持さも丹子菜  
る作がいは。のまが生動促豊。てつ、精ど作  
のり生かな、ですうみをか。るたそこもり  
だはまらつ感。き。のま。生。ま。な。よ。家。れ。め。は。の  
と八れ米て謝。な。こ。で。す。み。す。感。性。う。族。を。て。苦  
思年、作もの。い。れ。す。、。性。に。の。愛。つ。お。労